



2021年 9月18日
第29号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

9月15日号

9月9日、菅首相は退陣表明後初めての記者会見を、緊急事態宣言の延長決定の会見と一本化する形で実施しました。

今後のコロナ対策に関しては「ワクチンの接種証明や、検査の陰性証明を活用し、制限を緩和していく。認証制度を使って飲食、イベント、旅行などの社会経済活動も正常化の道筋をつける」と強調しています。しかし、ワクチンの完全な安全性が証明されない中、副反応に対する怖さもあり、抵抗感がある方々も存在します。一部の利益を優先する政策では、市民の分断を招き兼ねません。

JR東日本では7月以降、第5波による新型コロナウイルス感染拡大に伴い感染者が急増しています。特に変異株であるデルタ株は感染力が強いと言われ、どれだけ気を付けていたとしても感染してしまう可能性は誰にでもあります。多くのお客さまや社員と接する私たち鉄道従事者は、常にその感染リスクを負っています。

そうした中、複数名の感染が確認された職場では、原因を明らかにする会社の姿勢が見られず、一方で社員個人の責任へ転嫁しようとしています。また、社内での感染者に関する情報揭示も貼り出されておらず、正しい情報が伝わっていません。社員間の交流を想像させるような報告が行われているため「飲み会をやっていた」「喫煙所でクラスター発生」など、在らぬ噂が広がっており、社員間の分断が引き起こされています。

正しい情報を社員・お客さまに公表することは安全性、信頼の観点からも重要です。社員が安全で安心して働ける職場をつくるため、そしてお客さまに安心して利用していただくためにも、感染拡大に対して正しい原因究明で正しい感染対策が必要です。(K・K)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。